

2018年度 大学自己点検・評価(文学研究科)自己点検・評価総括用シート 1

＜文学研究科の教育研究目標の進捗状況＞

教育研究目標(タイトル)		評価指標	評価尺度	進捗状況
目標1	課程博士育成の促進と学位取得率の安定化	博士学位の取得率を上げる。	A: 博士学位取得率が基準比20%アップ	2018年度目標値 C
			B: 博士学位取得率が基準比15%アップ C: 博士学位取得率が基準比10%アップ D: 博士学位取得率基準の設定	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) C
目標2	研究支援体制のさらなる充実化	研究支援体制の広範で柔軟な運用をめざす。	A: 運用	2018年度目標値 A
			B: 構築完了 C: 準備段階 D: 検討段階	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) A
目標3	教員・院生間の学術交流の活性化と各領域の知の結集化	合同研究発表会の実現「文学研究科特殊講義」の実質的運用	A: 構築完了・運用	2018年度目標値 C
			B: 試行段階 C: 検討・準備段階	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) C

<2016～2018年度の自己点検・評価の取組み総括>

総括1 <3年間の取組みによって改善したこと、向上したこと>

研究科について、教員と大学院生が一堂に会する研究発表会が一部の領域ではあるが実施され始めた点。

評価専門委員・所見記入欄:

■総括1について

- ・ 「目標3 教員・院生間の学術交流の活性化と各領域の知の結集化」、評価指標「合同研究発表会の実現」「文学研究科特殊講義の実質的運用」については、「研究科について、教員と大学院生が一堂に会する研究発表会が一部の領域ではあるが実施され始めた」とのことであり評価できる。しかし、当該目標以外も含めて全体的にやや記述不足である。(A)
- ・ 今後の更なる伸展が期待されます。(C)
- ・ 研究発表会の取り組みが推進され、大学院の活性化につながることを期待しています。(D)
- ・ 専門性と公共性を求めて、よく努力されているものと思います。研究発表会が実質的でありつづけるようさらに工夫することを期待します。(E)
- ・ さらなる進展が期待される。
継続的に変化はなく、特に指摘する事項はありませんが、目標3が設定時からCのままであったのは、目標として意味が乏しかったように思います。(F)
- ・ 研究発表会の実施が及ぼす影響、成果について、今後検証されて、今後の取組みに生かされることを期待します。(G)